

令和2年度 第1回築上町総合教育会議 会議録

1 日 時 令和2年6月30日(火) 午前10時30分開会

2 場 所 築上町役場築城支所 第4、5会議室

3 出席者

(構成員) 築上町長 新川 久三

教育委員会

教育長職務代理者 中村 ひろ子

委員 麥田 猛美

委員 折本 美佐子

委員 茅田 香

教育長 久保 ひろみ

(構成員以外の出席者)

元島総務課長、野正学校教育課長、古市生涯学習課長

高尾生涯学習課参事、岡部学校教育係長、出口学校管理係長

宮内指導主事、小林指導主事

(傍聴者) な し

午前10時30分開会

※読みやすくするため、発言の趣旨を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

4 会議内容

(1) 開会

○学校教育課長(野正 修司君) 皆さん、こんにちは。定刻になりましたので令和2年度の第1回築上町総合教育会議を開会いたします。よろしくお願いいたします。

(2) 町長あいさつ

まず、町長の挨拶をお願いいたします。

○町長（新川 久三君） 改めまして、こんにちは。総合教育会議ということで、できれば4月会議をやりたかったんですけど、新型コロナウイルス感染症という非常に厄介な伝染病が蔓延しておるといようなことで延び延びになっておりました。

教育委員の皆さんには、本当に感染症の対応というか、それで本当に大変なんだということでしょうし、町のほうもできるだけ対応をさせてもらおうということで、子供たちにタブレットを全員分用意して家庭学習でも利用できるような環境にしようということで、一応、校舎内すべてでインターネットが使えるように、Wi-Fi設置の工事をプロポーザルでやるということでございまして、そしてあと、何より、本町1名感染者が出ましたけれども、医療関係者というようなことで、北九州の医療関係者でございまして、それ以降は本町に陽性の方は出ていないというようなことで、これもやっぱり出なかったのは努力のおかげ、そして、特に学校関係では、本当に充分な対応をしていただいたということの賜物ではないかと思っていますところでございます。

そういう形の中で、社会教育施設を全て使用を中断しておりましたけれども、ようやく再開をして、しかし、まだ密にならないようにと色々な対策を講じていただきながら、社会教育施設の開放をいたしているところでございまして、学校においても平常どおりやっていたいており、まだしかし予断を許さないというのが、北九州できのう1名、確か感染者が出たということで、気をつけながら行政運営を教育行政の運営をしていただいているところです。

町のほうもそういう形の中で、総務課を中心に全課一丸となって対応をしているところでございまして、そういうことでございますので、あとはこのコロナの関係等々、今年度の教育方針とございますか、そういうのをこの場で論じていただければありがたいかと思っていますところでございます。

以上をもちまして私の挨拶とさせていただきます。

（3）報告事項

○学校教育の取組について

○学校教育課長（野正 修司君） ありがとうございます。

続いて、報告事項ということで、学校教育の取り組みについてということで、私のほうから簡単に報告をさせていただきます。

お手元に、令和2年度築上町教育行政方針というつづりをお配りしておりますけれども、学校教育につきましては、2ページの上、上部部分の3、学校教育ということで始まりまして、この分については、また後ほどでもごらんいただければと思います。

今日は、今年になって新型コロナウイルスの感染防止対策というのがございましたので、その辺の時系

列の取り組み等を報告したいと思います。

まず、3月2日から24日までを休業期間ということで、春休みの前まで休業期間としました。それから、23日、24日については、いずれかを登校日ということで分散登校などに取り組みました。

それから春休みになり、4月6日、始業式です。そのときに休業期間を延長ということの話になっていましたので、4月8日から5月6日までを休業期間としました。それに伴い、入学式を小学校では5月13日、中学校では5月12日と延期しました。それと、当初の予定でありました4月9日から15日につきましては、小学校の入学手続き期間、中学校は8日から15日までを入学手続き期間といたしました。

それで、県から再びまた緊急事態宣言の延長に伴い、臨時休業期間の延長依頼がまいりました。それで、休業期間を5月31日までということで、入学式も延期し、予定しておりました12日、13日については学校説明会ということで行いました。

また、5月14日には緊急事態が解除されました。それで、当初31日まで休業期間を予定しておりましたが、5月25日から学校を再開をいたしました。その前段の取り組みとして、5月18日から22日までの間、順次分散登校を行いました。

給食については、開始日の翌日、26日から学校給食を開始いたしております。

それから、入学式でございますが、小学校は6月3日、中学校は6月2日に行うことができました。

それと、3月、4月、5月の休業がございましたので、夏休みにつきましても、8月8日から8月19日までの期間に短縮することといたしております。それから、1学期の終業式の日を8月29日と決め、8月30日、31日に休みを取っていただき、9月1日から2学期を始めるということしております。

以上がコロナ対策に係る小中学校の関連の報告でございます。

あと、今年度は大きな事業がございます。八津田小学校の建てかえということで、先ほども説明しましたが、6月議会でその予算を可決いただきましたので、今年度、来年度、2年間にわたって八津田小学校の建てかえを行いますので、一大イベントといえますか、学校教育課にとって大変な業務を行うということでございます。

それと、町長の挨拶にもございましたが、タブレットの整備ということで、文科省の方針では令和4年度までに児童生徒に1人1台のタブレットを整備するということで考えていたようですが、今年のコロナウイルスの感染防止対策の一環ということで、1人1台タブレットを今年度中に整備するように国のほうでも予算がついております。

それで、当町につきましても当初予算で計上した分、それから、6月議会で計上した分、あと、

残り540台程度になるんですが、それはまた9月議会に補正予算を計上させていただいて、年度内に1人1台タブレットを達成できる見込みとなっております。

これも、全国的に急遽整備が行われることとなりますので、若干、納期については影響が出ることも懸念されますけども、一応、年度内の予定で1人1台タブレットに取り組むということでございます。

以上、八津田小学校の建てかえ、タブレットの導入が大きな業務になるということで報告させていただきました。簡単ですが、学校教育課からは以上でございます。

○社会教育の取組について

続いて生涯学習課の報告を、古市課長からお願いします。

○生涯学習課長（古市 照雄君） 続きまして、生涯学習課の取り組みについてです。お手元の行政方針に、本来であれば今の進捗であったりというのを説明すべきところですけども、先ほど来、出ておりますコロナウイルスの関係で、4月1日からほぼ事業が生涯学習課の所管については止まった状態です。

所管施設につきましても、2月29日から休館をいたしまして、6月14日までの間が全ての施設が休館ということで対応をしております。この間、図書館については、若干ですけど開館をしましたけども、そののちにまた休館ということで、6月15日以降は本来どおりの、制限を設けながら開館をしております。

なお、屋内施設については、現状は町内者のみということで、体育館等については町内者ということで、制限を掛けながら運用をしております。

そして、何よりも一番大きな事業というのは、オリンピック・パラリンピック聖火リレーでございます。本来であれば、5月13日、既に聖火リレーは終わって日本各地を回っている状況だと思いますけども、このコロナの関係で、本町5月13日スタートというのも、今のところ延期ということで聞いております。

オリンピック・パラリンピックにつきましても、日程は決まっておりますけども、まだ聖火リレーをどうするというので、大会組織委員会から、県からの情報は今のところないのが現状です。

ただ、本町といたしましても、聖火リレーは来るということを決めたことについては変わりありませんし、そちらを仮に規模縮小、もしくはというところを考えた場合も決定をしたというのは事実ですので、これから先も築上町に残るような事業として考えて検討していきたいと思っております。

今の状況ですけども、それと、体育施設、社会教育施設、全てにおいて少しですけども若干動き出してきております。総会等についても、そのほとんどが書面開催ということになっておりま

すけども、事業を今後できる範囲で計画をしてやっていきたい。そして、小中学校については、今回、休業の期間が長かった関係で、かなり子供たちの生活形態が変わっているということも踏まえて、生涯学習課としても、今、小学校、中学校の事業が何かできるかということで今までやってきております。

今後、夏休み、夏以降の計画も、今のところ、いろいろできる範囲で考えていて、今、計画を立てているところです。

それと、あと社会教育の分野については、一部、町民文化祭については中止であったりとか、いろいろ例年あるような事業が、今のところ、それはない、また来年ということになっておりますけども、そちらもできる範囲で、今後、やれるところをやっていく、少しでも町民のニーズに応えたら行政でやりたいというのがありますので、そちらのほうは、今、できる範囲で後はやっていきたいと考えております。

生涯学習課としては以上です。

○学校教育課長（野正 修司君） ただいまの学校教育及び社会教育の取り組みについて、御質問、御意見等があればお願いいたします。

○町長（新川 久三君） 町民大学はどうしてる。

○生涯学習課長（古市 照雄君） 町民大学は、開校式はできなかったんですけども少しずつやっています。開始をしています。

○学校教育課長（野正 修司君） ほかにございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、4番のその他、意見交換ということで、ここからは町長に議長になっていただき、築上町教育行政について意見交換をお願いしたいと思いますので、お願いします。

（4）意見交換

○町長（新川 久三君） 一応、指名されたので私のほうから。

意見交換というよりも、例年に行っておる日中友好交流事業、私としては、これはもう今年は断念したほうがいい。まだ中国も入国制限をやっていると。日本からの渡航は全部ストップという形になっております。準備の都合もあるので、今年はもう断念したほうがいいんじゃないかと思っておりますけど、皆さんのご意見をいただきたいと思っております。どうですかね。

（賛成ですの声）

それともう一つが、グアムの中学生の交流も計画はしておりましたけれども、本来なら5月ぐらいに向こうに行って調印をする予定にしておりましたけれども、向こうとの往来ができるようになれば調印には行って、予算に間に合えば来年、間に合わなかったら補正予算ということで、来年の、行くとすれば、やっぱり時期としては夏休みがいいかと思うんですけど、そのこのところ、

ちょっとまだ計画が、調印をした状況でまた変わってくると思いますけど、それはそれで継続して、向こうとの往来ができるようになればやっていきたいと思っております。

ということで、御了承していただければいいかと。

それと、次の問題に入りますけどいいですか。あと、何か意見ない、その辺。大丈夫ですね。

今後の町立小中学校についてということで、どういう解決策か。

○学校教育課長（野正 修司君） 一応、お手元に平成18年度から令和2年度までの児童生徒数の表と今年の学校別の学年別の人数の表を添付いたしております。

合併が、確か平成18年ですので、当時と比べると児童生徒の数、小学校でいけば240名、中学校で150名近く減少しているのがわかると思いますけども、少子高齢化の時代ですので、今後の町内の小中学校をどのようにしていったらいいのかということ、また町長を含めて検討をいただければということで資料を用意しております。

○町長（新川 久三君） 一応、事務局は現状を把握した形で書いています。

基本的には、私の政策では、学校の統廃合は10名未満になるまでは一切話は進めませんと、そういう形でずっとやってきております。というのは、私は平成14年に椎田の町長に就任したときには小原小学校10名ぎりぎりだったんで、そして、それが若干持ち直して、また18年が10名だったか、それから皆さん合併後努力していただいて、多いときには18名となっておると。それからまただんだん少なくなってきて、今年は10名と。来年、また4人入るみたいになると思うんです。来年は4人入るよね。入学が。

○学校教育課長（野正 修司君） そうですね。あとで配布した資料を見れば。

○町長（新川 久三君） だから、まだ10名未満にはならないけれども、一応、その4名が卒業した時点。ちょっとたくさん入りだしたな、今。だから、10名未満になるということは、この状態でいけばあり得ない。

○学校教育課長（野正 修司君） いや、あるんです。

○教育長（久保 ひろみ君） あります。

○町長（新川 久三君） ある。どこで。

○学校教育課長（野正 修司君） あとで配った資料がありますよね。1枚紙のやつです。

これについては、令和3年度の人員が9名ということで。

○町長（新川 久三君） 令和3年。これが9名。4人入学して9名になるんだね。

○学校教育課長（野正 修司君） そうですね。だから、恐らく5名が卒業されるんだと思います。

○町長（新川 久三君） だから9名。次の年がゼロだから、8名になるな。

○学校教育課長（野正 修司君） それはまた、単純じゃない。卒業の人数を見ないとあれなので。

○町長（新川 久三君） 卒業。5年生が何人かちょっと出していない。わかりやすくしてくれて

たんじゃないかね。

○学校教育課長（野正 修司君） 5年生は1人です。

○教育長（久保 ひろみ君） 6年生が4人、5年生が1人ですから、8になります。

○町長（新川 久三君） 8になるよね。そういう中で、一応、未満になったら話は進めますということで問題提起をしていかなければいけないだろうかと思っております。

しかし、今、コロナという形で、密より疎のほうが良いという形になれば、それを発展しながら、空き家にどんどん都会から来てもらうという政策をちゃんとやっていったほうが、もうちょっと強烈な都会からの誘引活動をやっていけば10名取れるような状況になるんじゃないだろうかということで、地元のほうとちょっと話をしながら、空き家の貸せるところをたくさん出して、誘致を積極的にやっていこうかという気持ちもあります。

というのが、コロナがなければ即合併という形になりましたけど、やっぱり密より疎、田舎のいいところが出てきたというふうなことを、都会部の皆さんに宣伝。そのかわり、働く場所も若干作らなきゃいかんという形になりますけど、そういう方向性で地域振興を兼ねた形で、学校があれば地域振興も何とか継続できるような形になると思いますんで、そういう形でいこうかという考えを私は持っております。

そういう方向性でいいのかどうか、ちょっと皆さん、議論してもらえれば。

○教育長（久保 ひろみ君） 今、町長のほうから、今の段階では協議というところではないんだけど、今後はどうするかということで、教育委員会のほうに、今、振っていただきましたので、現在は10校全てにコミュニティスクールを指定していますので、その中で、学校運営協議会、地域の方々とともに、地域とともにある学校づくりを今進めていて、いろんな意見が出てきています。小さい学校のよさを言われる方もおられるし、中には、切磋琢磨する機会が若干少ないんじゃないだろうかと危惧される方もおられます。いろんな意見があるので、そういう意見を私たちは丁寧に聞いていかないといけないと思って、これから運営協議会の、今まではそれぞれの運営協議会で話し合いをしていたのを拡大して、全ての10校の運営協議会の人たちが集まって話し合いできる機会等を持ちながら、地域のお声もいただきたいと思っております。

私たちは、教育に携わる者としては、小規模のよさを生かしながらも、これから社会の変化に対応していく子供たちを育てていくためには、築上町の学校、そして、教育がどうあったらいいのかというところは協議していく必要があろうかと思っておりますので、特に専門的な見地からいろんな御意見を出していただいて、これからの町行政に参考にさせていただくという形を取らせてもらえればと思っておりますので、本当に忌憚のない意見を言っていただきたいというふうに思いますがいかがですか。

○町長（新川 久三君） はい、どうぞ。

○委員（折本 美佐子君） 折本です。いつもお世話になります。

私は2つありまして、まず1点目は、町長がさっきおっしゃった密より疎というのを本当にそうだと思いますし、このコロナ禍の中において、リモートワークが盛んになってきておりますので、ニュースでも取り上げられていますけど、都会から田舎のほうにどんどん移住したいという若い世代がいるということもありますので、ぜひ、町としてそういう若い世代、今から子供を産むとか、来てもらえるような取り組みを、私たちも微力ですが知恵を出したいと思いますので、町の町長にも何かそういう取り組みを、町を挙げての取り組みをしていただければと思います。たくさん築上町に来てもらえるような。

○町長（新川 久三君） 一応、今年はまだ10人ですので、地元を持っていきません。来年9人になってから問題提起をしますと、未満になったら問題提起をしますということで、ずっとそれは毎年、前は毎年だけど、今は町政懇談会等がありますのでそこで皆さんには問題提起をしてきておりますが、来年、未満になります。そこで問題提起をしながら、さっき言った方法でどんどん入ってくれば一番いいんですけど、そうやって地元で生まれる子供がたくさんおればいいんですけど、なかなかそうはならんだろうとっておりますので、よそから来てもらうしかないんじゃないかと思えます。

今までは、いわゆる小原から出た皆さんが小原まで連れて行って学校の存続を、毎朝連れて行って、迎えに行き連れて帰ると。町内に住んでいる方が小原を残したいという一心から、そういう方々も大分おったようでございますので、それがまだあれば、そういうのをお願いしていくこともありましょう。

あとは、地元とこの件について協議を、問題提起を来年からしますので、今年是我々準備段階ということで、統計から見れば9名になるという形になっております。再来年が8名という形になるんで、それを契機に考えていただいてもらおうかと。

○委員（折本 美佐子君） 今、1点目を言ったのが、リモートワークによって築上町を人を増やしていく方向で取り組んでほしいという要望なんですけれども。

もう1点目、さっき町長がおっしゃった9人、小原小の話が出ましたけれども、私個人としては、小原小だけじゃなくて、築上町全体の学校を見ても子供たちがすごく減っております。私の子供も下城井小学校でお世話になったんですけど、そのときからしてもぐっと減ってきていて、私が保護者としてかかわっていたときに、指導者としても保育所とかでかかわっているんですけど、やっぱり少人数の学校だと、もちろんよさは私もわかります。すばらしい。少人数だからよかったということもたくさんわかるんですけど、やっぱりさっきおっしゃったように切磋琢磨することとか、大人数で取り組んでやる喜びとか、そういうものが少し足りなくなっているのをすごく、子供たちを育てながらも実感しておりました。それがもう10年以上前

なんです。

あれからまたぐっと人数が減っているの、やっぱり物足りなさを感じている子も現場に入ると思いますし、保護者も、今、学校の変更届、希望届とかいうのがやっぱり毎年あるんですけども、人数が少ないから大きいところで学ばせたいと思っている保護者がいるのも事実なんです。だから、そういうのも1校だけにこだわらずに、全体として、築上町全体の流れを見てどうあるべきかという、どういう方向にしていくかというのを私は考えたいと思っております。

1人でしゃべって済みません。

今後、もし、私たち教育委員もいるし、情報も収集しますし、できる努力は一生懸命します。教育委員会としても話し合っていこうと今しているんですけども、その中で、町長がおっしゃった9人になったら考えるじゃなくて、早急に進めていこうとかいう話に教育委員会の中でなったときに、またこういった会議を、町長していただけますか。話を聞いていただけますか。

○町長(新川 久三君) 当然いたします。全校の問題という形になれば統廃合の問題もあるんですけど、私は、10人未満に足りないということで、小原が対象に一番近いと、来年なるであろうという形になっておるといことで、そういう形で。

あとは、先ほど言った地元で家で勉強できる、パソコンを使ってできるという形になれば、これはこれで同一の勉強ができるかと思うし、そのところをミックスしながらやっていくということもありますし、だから、そのところ、非常に、コロナで大分情勢が変わってこようかと思っておるので、そのところを色々検討しながらやっていく必要があろうかと思っております。

あと、ほかにあれば。

○委員(麥田 猛美君) 中学の教育ということで、また全然違うんですけど、我々が中学に行っていて、子供の声が聞こえない。それは、多分、総務課長当たりがおられたときは、朝練習する、子供の声がしたり、いろんな音がしよったと思います。今は、チャイムが鳴るまで一切音がしない。それが中学校です。

具体的に言うと、例えば、一番はバレーをする場所があるんですけど、今は、今年4人入りしましたので、今のところ5人。去年まで1人でバレーの道具を全部親の車に積み込んで、椎田に移動して練習をしたということを繰り返しておるんです。今年入ったから4人、ずっと続けてくれればチームとしてなりたつんでしょうけど、中学校の年ごろの子供にとって、男の子も女の子も部活に打ち込めないなんていう生活、自分の中でイメージがわからないんですね。部活動、全く成立できない。だから、朝練をしているところなんかほとんどないです。個人的に2、3人、学校の周りをぐるぐる走っているのはあります。その程度しかいないから、毎朝1時間ぐらいおるんですけど、寂しいなというのが正直なところなんです。

それは感傷的なことだからいいですけど、僕は線引きが理解できていない。具体的に言います

と、僕は今、八代市に合併しましたが熊本県の坂本村というところの出身ですけど、私がおったころの人間、250人、1学年です。250人の学校でしたから。少人数で育ってないんですけど。それが、私がこの年になって、全校で何人おるかと言うとですね、40人。学校全体で40人のところにある。だから、それも何十年か前になるんだけど、思いきって合併して、中学で寮をつくらなきゃいけないと。テレビでいうぽつんと一軒家が集まったような地域ですから、ぽつんと一軒家が集まった地域なので、中学から寮生活をしながら、今でもその寮があるんですけど、旧八代市と同じくらいの面積があるので、通学が困難、できない。公共交通機関もないし、車の無い家もいっぱいあるし、自転車に乗れない道もいっぱいあるということでそういう生活を強いられるんですけど、そんな状況です。

その中で子供たちが何を頑張っているかという、やっぱり部活なんです。バドミントンの福島なんて、うちの村の出身なんです。オリンピックの候補に挙がっていた、いろいろ浮いた噂もありましたが、あれはうちの村なんです。40名の中の1名が中学まで過ごして、結局バドミントンはずっと小規模でやっていたんですけど、最終的には青森山田高校に行っておlympicまでいったというような感じなんです。あれで、部活動が何もなくて、あの小さな世の中でひくくめて40人で生活している。どんな人生を送るかなと、いつも帰りながら思います。そんな感じなんです。だから、できればある程度の規模の学校で、それなりに鍛えていって、子供を成長させてあげたいというふうに、特に中学生、築上町についてはそう思います。

もう1個先は、よそから人を呼び込むためにはそれなりの魅力があるでしょうし、結局、よそから来ただけの中身がなかったら来ないです。今、随分やっているのが、ものすごい、人があまり寄りつかない山の中で、不便な生活をしなくちゃいけないので、ここはそういう意味では中途半端なところだから、町でもない、田舎でもないと思っているんです。その中で、人が寄りつくような魅力を出す。物すごく困難だと思っている。そこに人を呼び込むというのは、目の前に雄大なダムがあるとか、そういうのも何もないし、あまり言いませんけど、空を飛んでいる飛行機ぐらいしかないわけですから、それで人を集めるというのは、物すごく困難だと思います。

だから、そういう情勢も考えて、とりあえず長い目で見ることですけども、すぐに考えないと手遅れになるような気がするんです。

○町長（新川 久三君）　そこで、地域と行政が一緒になって頑張るとい、これが私は大事だと思う。地域がやっぱり一生懸命やらないと人は集まりません。そのところで、小原小学校区の方も一生懸命頑張ってもらおうという1つの方策、どうしたら廃校にしないで済むかとか、そういうのをやっぱりもうちょっと考えてもらうような形にやっていかないかなだろうと思っておりますし。

○委員（麥田 猛美君）　小原に特定せずに、町全体で、小中学校の統廃合とことで、やっぱりど

こかできちんともう1回一から話をしてほしいと思っているんです。

先ほど中学校の例で言いましたけど、小学校はあまり言わないって言ってしまったんですけど、小学校でいうと、一部複式学級があったり、いろんな不都合が多分いっぱいあると思う。せめてそれだけでも解消してやったほうがいいんじゃないかと常々思っています。かわいそうだなと。

○町長（新川 久三君） そういう意見もあるし、私も存じている。だけど、やっぱり地域で絶対残したいという気持ちも多々あるんで、ここんところは、本当に財政的にいかないようになった場合は、これは当然必然的にやらざるを得ないような状況になりますけれども、今は県のほうも教員の配置もやってくれているし、県が教員を減らす、児童数が少ないなら教員はやらない、統合しなさいという方針が出ればこれはやらざるを得ない形になるけれども、県もやっぱり我々の学校運営といいますか、それで教員の配置等々をやっていただいているし、これができなくなれば、町独自でどうしても教員の確保は難しいであろうと。加配教員ぐらひは町でもできるんですけども、全ての教員を町で賄いなさいといたら、これは当然できるもんじゃないです。

そういう形で、非常に統廃合というのは難しい問題をかかえておるんで、私は1つ線をきって、10人未満になったら話を進めますと、それまでは安心しておってくださいということを地域の皆さんにずっと言ってきたのが私の政策なんですけど、そのところが方向変換になれば、やっぱり地域の皆さんと色々な話をしていかざるを得ないし、この一番いく要因というのが町の財政難という形になります。

だから、クラブ活動はそれは公共でやってもらう、それから、スポーツクラブに行っている人が実際たくさん出てきているんです。だから、そういうスポーツクラブに行かないで自分の学校で活動するという形になればいいんだけど、もうほとんど専門化してきておるんで、スポーツクラブという、今、スポーツクラブは町内でも4つあるかな。4つかな。

○生涯学習課長（古市 照雄君） 子供ではなくて。

○町長（新川 久三君） 子供。少年スポーツ。

○生涯学習課長（古市 照雄君） スポーツクラブは10。

○町長（新川 久三君） 陸上とバレーと。

○生涯学習課長（古市 照雄君） バドミントン。

○町長（新川 久三君） バドミントン。

○生涯学習課長（古市 照雄君） 野球。

○町長（新川 久三君） 野球。

○生涯学習課長（古市 照雄君） サッカーが3チームです。

○町長（新川 久三君） サッカー。

○生涯学習課長（古市 照雄君） ソフトボール。

○町長（新川 久三君） ソフトもある。

○生涯学習課長（古市 照雄君） レスリング。

○町長（新川 久三君） レスリング。

そういうところに行っているから、学校での活動が非常に難しくなっている。昔はそれがなかったです。スポーツクラブというのは、それぞれ学校単位での形で。

だから、野球部が運営できないというのは、いわゆる京築ボーイズとかいう形で、またひとつ大きい団体で硬式野球が出てきておるとい形になるんで、それがやっぱりひとつの野球部の部員が少なくなってきたという要因になると。

そのところは社会状況の変化等もあるんで、そのところは工夫をしながら学校運営はやっていかざるを得ないかと私は思っておるんで、そのところは学校の校長先生の力量になるうかと思うんですけど。あとは。 数、全体は少ないんですけど。基本的には。

それと、先ほど福島選手、競技で。私もちょっと見たのは、大島中学校、あそこは全校で十四、五人しかおらないのに、バレーボールが県大会でいい成績を収めるんですね、確か。これはテレビで見たことがあります。大島中。宗像の大島中学。全校で十四、五人しかおらないのに、バレーだけ強い。昔は小原小学校が、やっぱりそのときは30人ぐらいおったか、バドミントン一筋で、全ての子供会もバドミントンを、1年生から6年生まで全部上位をかつさらっていったという、これはいい指導者がいたからだと思うんですけど、そういう状況もあるんで、いろんな多種目ですれば人間がいるし、小種目ですればある程度、そのところは難しいんですけど、それぞれの趣味嗜好というか、好き嫌いもありましようし、そのところはある程度できる範囲で私はやっていただいて、現状ではそれしかできないんで、統合ということになれば、若干は緩和できると思うんですけど、中学校でも、統合をして400人おらんような状況です。

○教育長（久保 ひろみ君） 399人。

○町長（新川 久三君） そういう形になっておるんで、非常に世の中が変わってきておるちゅうのが1つ。そして、部活をしない子がたくさんまた出てきています。基本的には。どうかな。部活加入率というのは。

○委員（麥田 猛美君） 部活だけを言ってるわけではないんですけど、長い目で見ると、この町自体の人口が確実に減っていくじゃないですか。20年も30年もすれば、私が生きているくらいの、子供たちの数も激減するわけです。町そのものの存続が危うい状態になるじゃないですか。なってからというよりも、そういう気配がある時点からもう少しそういうことを考えて、5年後、10年後、20年後をずっと見越して、何か取り組んでいくちゅうのも僕はいいい方法ではないかと思う。

○町長（新川 久三君） そういう考え方もありますけど。

○委員（麥田 猛美君） 1万4千ぐらいでしょ、50年後ぐらい、人口そのものが。

○町長（新川 久三君） その辺の意見を集約しながら。

○教育長（久保 ひろみ君） そうですね。皆さんの意見をまた出してもらって。

○町長（新川 久三君） はい。中村さん。

○委員（中村 ひろ子君） 私、先ほど教育長さんのコミュニティスクールの活用という話をされて、本当にここで地域の方の声を聞くというのはすごい素晴らしいことだと思いました。子供の数というのは、やはりこれを見たらどんどん減って行って、最終的には、20年前と比べると200人近く子供が減ってきていますので、そういうのを考えていったときには、やはり、いずれ将来をとというのも考えなきゃ、人数的な面で考えていく。

そのためにも、少し早めにスタートしなきゃいけないのかということと、もう一つは、八津田小学校と築城中学校が建てかえをしましたけれども、いろんな学校が、もう多分耐久年数があと数年ぐらいのところだと思うんです。ですから、そういうのを考えていったときに、今の状況の学校、このままでいいのかということも、やはりこれから考えていかなきゃいけないのかなと。

先ほど首長さんのほうから財政面のことの話がありました。これもすごい財政にかかわることだと思いますので、その辺のところ、どれだけ国のほうの補助があるかわからないですけども、建物の老朽化と人口の関係から、やはりいろんな学校の統廃合というのをこれから視野に入れて話し合っていく必要があるのかというふうに思っています。

○町長（新川 久三君） 建てかえは八津田小学校と椎田中学校で終わりにして、あとは中身の改修、これでいこうとかと。いわゆる古くなったものについては、中を新しくしていくと。耐震があるという形になっておるんで、そういう形でやっていただくかということで、議会でも答弁はしております。

あと、そういう形の中で、財政、これが一番統合する理由になるんですけど、少しずつ窮屈になってきておるんですけど、合併したおかげでこれは持ちそうな感じもあるし、だんだん減らされてくれば、人口が減れば減って、だんだん交付税というのでも減らされるんですけど、何とか現状を持ちこたえながら、学校のほうもできるだけ、少しずつ改善、改革していくというか、こういう方向性のほうがいいのかとと思っているところで。

建てかえのほうはそういうことで、八津田、椎中は耐震が足りないということで、これはもう建てかえざるを得ないという。地震がいつ来てもいいようにという形で、本来はこっちには断層はないんですけど、それは国の文科省の。耐震の基準の弱いところは、文科省の予算にしなきゃ防衛省はくれないんです。何か協定があるみたいで。だから、八津田小学校も文科省の予算でという形です。本来であれば、防衛省のほう補助率がいいので防衛省からもらいたかったけど、なかなか、私も防衛省に大分かけ合ったけど、それは無理といわれまして。そういうことでござ

います。

あと、茅田さん。

○委員（茅田 香君） 私は葛城小学校で子供たちをずっと通わせていただいて、本当に少人数で、幸い私の子供たちは割と人数が多いクラスだったもので、わんさかしていたんですけど、少人数の学校も素晴らしくて、6年間ずっと同じクラスで仲がいい、兄弟のような感じで、保護者もすごいよくて、そういういいところもあって、でも、学力がすごく低下したときがありまして、それはやっぱり、先生たちが一生懸命になって自学を学習したりとか、その子にあった対応をしていただけたというのもよかったんじゃないかと思って、少人数でうちはよかったんですけど。

中学校になったら、やはり大人数のところ少人数の子が行くと、ちょっと構えたり、ちょっと何か一人になったとかいう子もいたと思うんですけど、小学校のときの友達が助け合ったりとか、きずなができていたので、私もだったんですけど、こういう人数を全体的に見ると、人数が少なくなってくれば統合というものを考えなくてはいけないかと思えますし、いずれ、10年、20年先、もし可能であれば、椎田小、椎田中学校と築城中学校、それぞれ空色保育園のような、椎田小校区の小学校が1校、築城小校区に小学校が1校というような形もできるのではないかと、そういう、そうしたら、どこの小学校に行かんにゃいけない、どこの小学校じゃないと嫌だという、保護者の判断でそういうあれも出ないのではないかと。小学校が1校しかなければ、その小学校に行くという。それはまたスクールバスで送り迎えもできるような形で。未来の形ですけど、そういうのもいいかと。ちょっと保護者の意見で。済みません。何か、あまり。

○町長（新川 久三君） 同じような意見ですし、私も議会の質問の中で、椎田中学の建てかえ、椎田小学校は建てかえないかという形の中で、椎田小学校と椎田中学校、同じ敷地にやってもいいと、そういう1つの案もあるという話はして、そこに今度また、だんだんそこらになれば統合の話、保護者が選べるような状況を作る環境を作ればいいんじゃないかというふうなことで、僕は答弁から、今度は逆に質問したいとか反発されて。

○教育長（久保 ひろみ君） 私も将来的にはどうあるかというのを考えていきたいという思いは個人的にあるんです。

私は一応、この町でちょっと課題に思っているのは、小学校の減少率よりも中学校の減少率なんです。これは単純に生徒数が減っているわけではなくて、築上町は結構JRとかの交通の便も割といい関係もありまして、北九州、それから、県立学校等を選ばれるという親御さんも、その数が結構比率が大きいんです。私は選ぶということはすごくいいことだと思うんですけど、うちの町にある2つの中学校もすごく先生たちも、子供たちも物すごく頑張っているわけですよ。だけど、なかなかその辺のよさが伝わりづらいというところもあるようにあるので、さっき町長がおっしゃられたように小中一貫校、そういう特色のある学校づくりをして、それを売りにしてい

くことによって、小学校と中学校が近くにあるか離れているか、それはいろいろな形はあるんですけど、そうして中学校の先生が小学校にも日常的に行く、小学校の先生も卒業した子供たちを見に行く、そういう関係ができて小中一貫という形ができれば、親御さんもわざわざ遠くに行かなくても安心して、この中学校でこんなことやっているだと、ここに行かせましようとなると思うので、そこは私たちの少し努力不足かと思って、何かそういう特色を打ち出していくことで、生徒さんの安心して我が町で教育を受けてもらうという形をできないかなんて思って、ちょっとそういうものもいろいろ皆さんたちの御意見をいただきながら、それこそ皆さんの、保護者の思いとか、地域の方の思いとかを無視してはできないことですので、できるだけそういう声を拾いながら進めていきたい。

それはもう急に明日からするとはできないので、今からいろいろな手を考えながらいかないといけないのかと思っています。

○町長（新川 久三君） いろいろ意見が出ましたけど、今後の課題を皆さん持っておるんで、この回1回じゃなくて、年3回ぐらいやりましょうか。どうですか。またお互いのいい意見が出てくるし。

それと、一応、今日はこれぐらいで。

○委員（麥田 猛美君） 追加でいいですか。今後、お話する機会がないので。

私が教諭成り立てのころは、コンクリートの建物の耐用年数は40年だったんです。だから、築城中学校におりましたけど、それからしばらくしたら、上からぼろぼろと落ちてきて。そのときに、いよいよ60年たつたと、建てかえの対象になるとよと思って私も聞いていました。それは途中で勝手に変わって60年だと。60年ちゅうと、その60年も今からくるわけです。

だから、内部をちょっといじったりすることでは追い付かないぐらいのレベルに建物がなっていくじゃないですか。その辺も心配なんです。だから、法律的なことは町長のほうが専門家ですから、次の機会までに教えていただいて、危ない建物の中で生活しているのかちゅうのが、私が保護者だったときに言いました。

安心と安全をお示ししていただければ。

○町長（新川 久三君） いろんな意見をもらっている。

こういう議論は、この会議の中で重ねていきながら、あとは住民の皆さん、地域の皆さんと保護者の皆さんと相談をしていくという形にしていきたいと思います。

こういう問題はずっと続くと思います。皆さん、いろんな情報を仕入れたものをここで発表していただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

それで、あともう一つ、教育委員会でやりたいこと等があれば、ぜひ企画立案を委員さんの中でしていただいて、予算を私がつけますので。ある程度の。莫大な予算ではありませんけど、予

算要求をしていただければ、委員さんのほうから提案をしていただいて事務局に言えば、そういうのをやろうやないかと言えば、教育委員会の中でかたまれば、それで委員会は執行機関でございますので、あとは予算を町長がつけるかつかないかの形になっておりますので、べらぼうな予算ならちょっと勘弁してくださいという話になるかもわからんけど、そういう子供たちがよくなる方法、勉学もできて社会に出ても非常に活躍できると、そういう子供たちが1人でも多く築上町から育ててほしいと思います。

できるだけ築上町に意見をもらうような施策も私も進めないかんと思っているけど、なかなかそれができないので、企業誘致ができればいいんですけど、働く場所、これが非常に大事ですので、今後も地道に企業誘致をやっていきたいと思っております。よろしくお願いします。野正課長が企業誘致を1社してくれたからね、ジョイフルを。

従業員が築上町の人がある程度採用される、正社員がされだしたら、多分定着をしてくれるんじゃないかと思っております。今、大分から正社員が来ているので、正社員、パートしか雇ってらっていないんです。そういうことでございますので、今後ともよろしくお願いします。

○委員（折本 美佐子君） あともう1個いいですか。終わりましたか。

○町長（新川 久三君） まだいいよ。

○委員（折本 美佐子君） ちょっと妄想ですけども、なかなかお会いできないので思いをと思いまして。

さっきの小中一貫の話は私はありだと思えますし、学校統合も私の中では絶対と思っているんですけど、それと同時に、今のリモートワークの話なんですけれども、築上町は、海、町、里山に恵まれて、私も大好きな町なので、だけど、今、高齢化で田んぼがあっても田んぼができないとか、農地もできなくなっているところがあると思うので、そういうところを例えば町が申し出たところ、安く買って、そこに人を寄せる、誘致する。家を建てて若い世代に入ってきてもらうとか、そういうこともありますか。

○総務課長（元島 信一君） 今、折本委員さんから言われた、特に折本さんところの実家から下香楽のところというのが、ほとんど田んぼが荒れているような状況で、産業課のほうは、あそこはもう少し農地を利用しやすいようにということで、圃場整備を計画をしています。どうしても担い手さんが少ないので、今、産業課のほうが事業として、一度、そういう耕作放棄地になっている分を中間管理機構という県のほうに田んぼを預かって、担い手さんとか、集落営農組織さんのほうに、そちらのほうに10年間貸し出しをして、農地を再利用するという事業をやっていきます。

なかなか新規就農の方の分を、築上町も合併してから10名程度いるんですけど、外のほうから築上町に住んで、新たに農業をスタートしようという方がどうしても少ない現状なので、そういうところ等も政策の中で入れていきたいと思っております。

麥田先生も言われたように、築上町、ド田舎でもないし、都会でもない。中途半端なところなので、寒田地区みたいなのが全部あれば、そういう田舎暮らしができるし、不便を有効利用しながらやっていこうという知恵を絞りながらやっていこうという暮らしの部分もあると思うんですけど、コンビニもある、JRもある。

○委員（折本 美佐子君） インターも3つあるので。

○総務課長（元島 信一君） そういうところもありますので、ちょうど中途半端な位置づけのところにあるので、人口は出ていくけどもなかなか入ってこないということで、今、魅力あるまちづくりということで、企画振興課のほうも空き家バンクとか、数件問い合わせあるんですけど、なかなか契約までいって住むというところまでいかないの、先ほど教育長さんが言われた魅力ある学校づくりといいますか、そういうことをやれば親のほうとしても、こういう特殊性がある教育だったら築上町に暮らしてやってみようかという、住んでみようかというところの部分をもう少し、よく皆さんから言われるんですけど、情報発信が築上町はへたくそなので、そういうところももう少しうまく利活用していってアピールしていきたいと思っております。よろしく願いします。

○委員（折本 美佐子君） そういうぽつんと一個一個じゃなくて、大量に買って、区画を。それはちょっと難しいんですね。

○町長（新川 久三君） それは不動産会社にやってもらいますから。町がその事業をやるのはちょっと無理な形になります。

○委員（折本 美佐子君） 妄想でした。

でも、そういうところに若い世代が子どもをお持ちの、その人たちが入ってくれたらスクールバスで。

○町長（新川 久三君） 今、農業で1人だけ入ってもらったのね。地域づくり協力員という形で、小原に1人入ってもらって、小原地区に寄与してもらおう形になっている。地域協力員はやめて、地域で農業をやりながら頑張っております。

○委員（折本 美佐子君） ありがとうございます。

○町長（新川 久三君） 地域づくり協力員のもうちょっと募集を産業課、もっとせないかな。漁業に1人入っていますよ。地域づくり協力員が。

そういうことで、いろんな意見をもらいましたけど、次回どうです、11月ごろにちょっとこういう会議をしたほうがいいんじゃないかと思うので。野正、いいかな。11月ごろにやったら、大体いろんな会議も少ないやろう。それならできるんじゃないかと思うので。

○教育長（久保 ひろみ君） 後ほど日程調整を。

○学校教育課長（野正 修司君） また委員さんと相談をして日程調整したいと思います。

○町長（新川 久三君） 教育委員会を開くときでもいいですよ。僕は合わせますので。

○教育長（久保 ひろみ君） よろしくお願ひします。

○学校教育課長（野正 修司君） それじゃ、よろしいですか。

5 閉会

それでは、令和2年度の第1回築上町総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

午前11時28分閉会
